

宮城県上工下水一体官民連携運営事業
(みやぎ型管理運営方式)

令和7年度 年間業務報告



みずむすび

令和8年9月2日

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

1.維持管理業務報告

- ① 運転管理
- ② 主なトラブルと対応

2.改築業務報告

- ① 発注件数（設計・工事）
- ② 完工工事等
- ③ 会計検査受験

3.経営管理業務報告

- ① 財務成績
- ② 地域への貢献
- ③ 広報活動
- ④ 教育・研修・訓練
- ⑤ 内部統制
- ⑥ 県民からの意見等への対応

4.その他事業・業務に関する報告

- ① 任意事業
- ② 関連業務・貸付業務

5.課題認識と見通し

- ① 法人
- ② 用水供給事業
- ③ 工業用水道事業
- ④ 流域下水道事業

6.令和8年度事業トピック

- ① みずむすびアカデミー
- ② MDP※の進捗と活用状況
- ③ 改築業務
- ④ 任意事業
- ⑤ 広報・イベント
- ⑥ リスク対応

※MDP＝水みやぎDXプラットフォームの略称
詳細はP.45を参照

はじめに

1. 令和7年度の課題認識

- ・ 厳しい外部環境下での、安定的な事業運営の継続
- ・ 信頼獲得に向けた「地域貢献」と「情報発信」の改善
- ・ 関係市町との連携深化（MDPの展開と地域連携事業の推進）

2. 令和7年度の総括

- ・ **経営環境**：異常気象（特に高温や日照り）に伴う少雨および原水水質の変動、インフレの継続と中東情勢の影響、水の官民連携（ウォーターPPP）の先進事例として社会的注目度が高かった。
- ・ **対応方針**：事業継続を最優先とし水質変動や災害へ対処、維持管理業務や改築業務改善によるインフレ対応、正確な情報発信の徹底に努めた。
- ・ **取組実績**：課題への対応により、MMMの経営成績は概ね計画通りの水準で着地した。MSMにおいては、外部環境要因を受けつつも黒字を堅持し、維持管理業務も安定的に推移した。

3. 令和8年度の課題

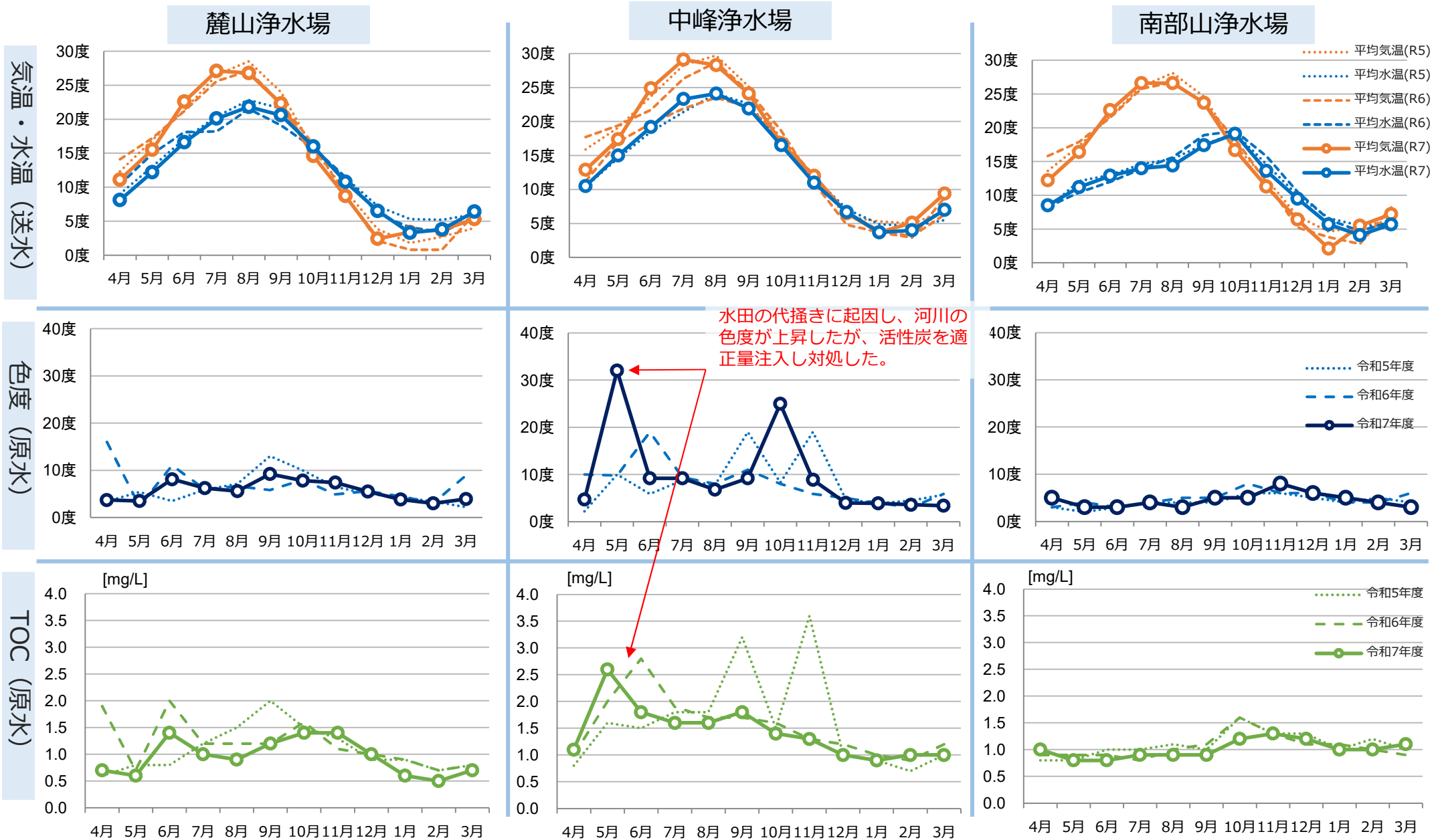
- ・ 前年度の運営実績を踏まえた、さらなる安定的な事業運営の継続
- ・ 構築した運営体制をもとに「地域貢献」と「情報発信」のさらなる強化
- ・ 七ヶ浜町との事業安定化と、引き続き関係市町との連携深化

1.維持管理業務報告

年間を通して要求水準水質を安定的に満足した
水道の原水水質の悪化がみられたが水道水質基準を堅持した

1.維持管理業務報告 ①運転管理（上水）

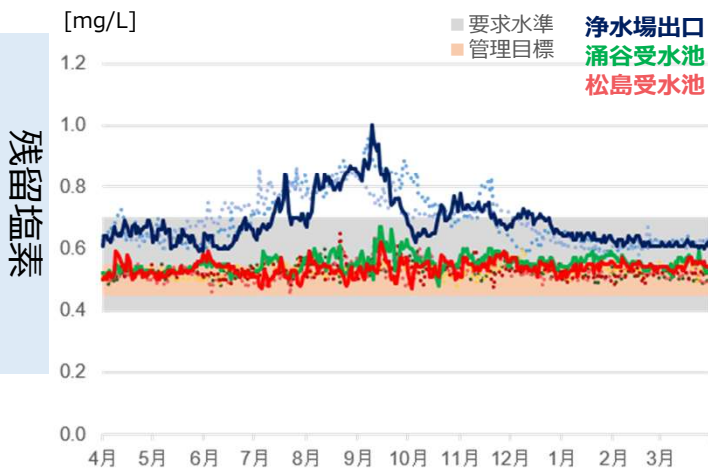
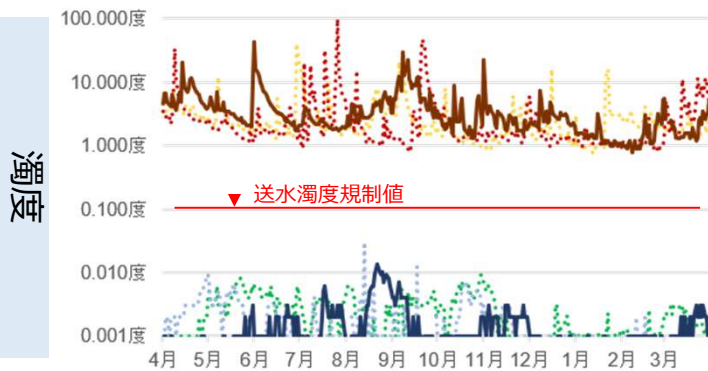
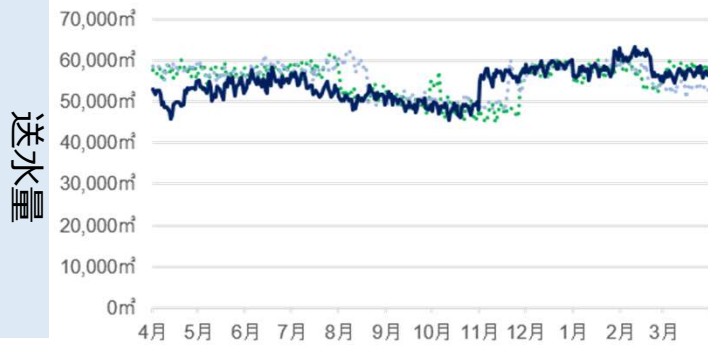
● 水温・原水水質



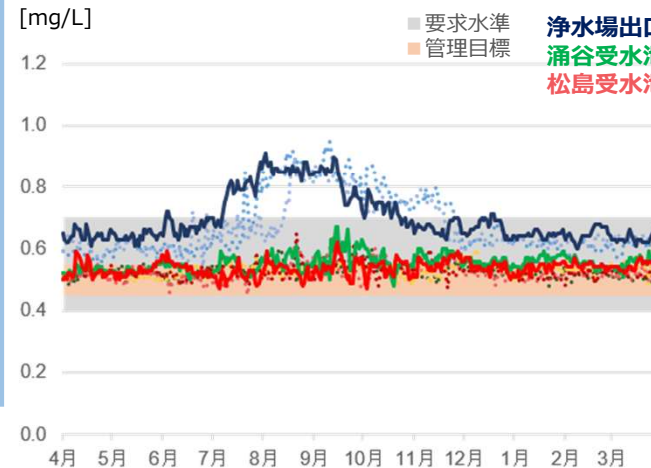
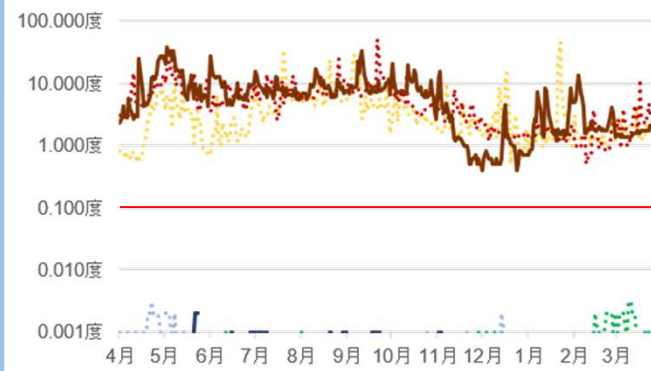
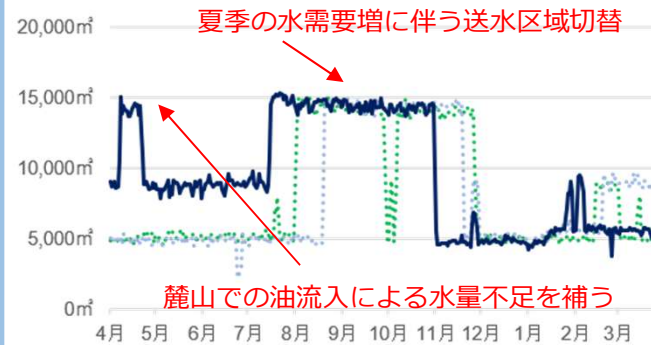
1.維持管理業務報告 ①運転管理（上水）

・ 送水量・濁度・残留塩素

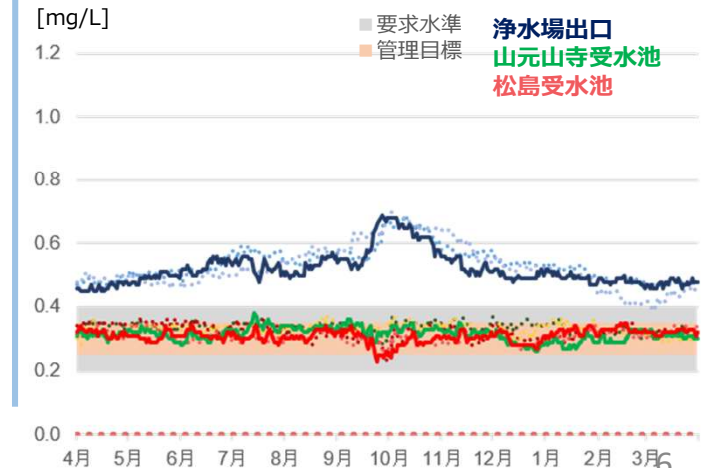
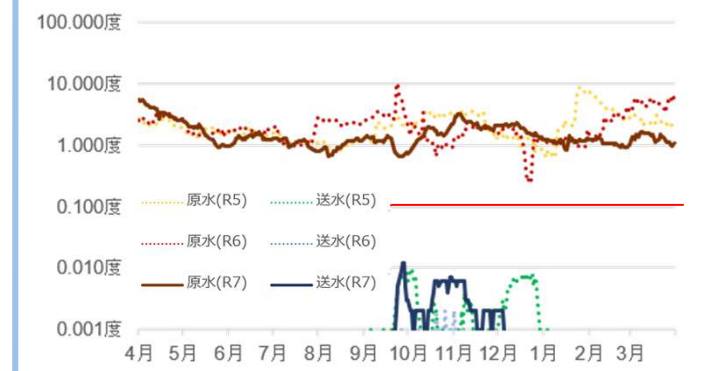
麓山浄水場



中峰浄水場



南部山浄水場



1.維持管理業務報告 ①運転管理（下水）

下水 流入水質：全項目において流入基準範囲内を維持

	項目	基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
仙塩JC	BOD (mg/L)	250	180	170	160	170	160	130	160	140	180	170	170	160
	COD (mg/L)	150	110	110	100	110	100	88	99	100	110	110	120	120
	SS (mg/L)	290	160	160	150	160	170	140	150	140	170	140	170	160
	T-N (mg/L)	52	35.2	39.7	34.7	39.7	40.7	40.7	36.0	35.7	39.8	41.2	44.0	42.4
	T-P (mg/L)	7.9	3.7	4.3	3.8	4.1	4.4	4.2	4.2	4.2	5.2	4.5	4.7	4.3
県南JC	BOD (mg/L)	240	140	140	130	140	130	120	140	140	150	170	150	160
	COD (mg/L)	150	81	84	89	82	74	69	87	88	91	93	91	87
	SS (mg/L)	260	140	150	130	130	130	120	150	140	150	150	140	140
	T-N (mg/L)	48	32.3	31.7	31.3	35.6	34.8	35.3	34.8	36.0	38.6	39.3	36.5	36.6
	T-P (mg/L)	16	3.3	3.4	3.2	3.6	3.9	3.7	3.3	3.8	4.1	4.2	3.9	3.9
鹿島台JC	BOD (mg/L)	350	200	170	200	190	180	200	150	190	230	260	240	240
	COD (mg/L)	180	120	110	130	120	110	130	100	110	150	160	140	140
	SS (mg/L)	340	140	140	190	150	140	200	110	140	190	210	190	170
	T-N (mg/L)	51	38.7	33.7	34.3	32.7	32.7	31.6	35.9	39.0	47.4	46.8	43.8	40.1
	T-P (mg/L)	5.7	4.1	3.2	3.3	4.2	3.6	3.5	3.7	4.0	5.3	5.5	4.8	4.2
大和JC	BOD (mg/L)	280	200	210	210	200	180	180	190	210	220	220	210	230
	COD (mg/L)	180	130	130	130	120	120	120	120	130	130	130	130	130
	SS (mg/L)	290	200	210	220	200	180	180	180	200	200	210	190	220
	T-N (mg/L)	53	37.3	42.7	40.2	35.8	35.4	34.9	41.9	43.3	44.4	45.1	44.0	49.9
	T-P (mg/L)	6.7	4.0	5.2	3.7	4.0	3.6	3.8	4.6	5.0	5.4	5.0	4.8	5.3

1.維持管理業務報告 ①運転管理（下水）

下水 放流水質：全ての法定基準および県基準を満足

	項目	法定基準	県基準	年間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				最大	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
仙塩JC	BOD (mg/L)	10以下	3以下	4.0	2.6	2.3	2.1	2.0	2.0	1.7	2.0	2.0	1.8	2.4	2.2	2.3
	COD (mg/L)	-	12以下	12.0	10.6	10.2	10.1	11.0	10.5	9.8	9.5	9.9	10.1	10.4	11.2	11.5
	SS (mg/L)	40以下	3以下	4.6	2.6	2.3	2.4	2.0	2.2	2.1	2.1	1.8	2.2	2.0	2.3	2.2
	T-N (mg/L)	120以下	17以下	18.8	12.4	12.4	11.9	15.0	14.2	13.6	12.3	15.0	13.2	14.2	13.7	14.2
	T-P (mg/L)	16以下	3以下	2.4	1.4	1.8	1.7	1.5	0.9	0.7	1.7	1.2	1.6	1.6	1.6	1.6
県南JC	BOD (mg/L)	15以下	5以下	4.9	3.6	3.0	2.2	3.0	2.5	2.6	2.4	3.2	3.9	3.6	4.2	4.3
	COD (mg/L)	160以下	15以下	13.4	10.3	9.7	8.8	9.5	9.1	9.1	9.1	9.9	11.5	12.3	11.7	12.8
	SS (mg/L)	40以下	4以下	5.4	2.3	1.8	1.6	1.6	1.7	1.9	1.8	2.3	3.6	3.6	3.5	4.0
	T-N (mg/L)	-	26以下	24.9	20.0	20.9	16.4	20.2	19.9	21.2	19.5	21.8	24.0	20.7	21.7	21.6
	T-P (mg/L)	-	2以下	2.2	1.0	0.87	1.2	0.85	0.68	0.83	1.2	0.67	1.2	1.4	0.87	2.0
鹿島台JC	BOD (mg/L)	15以下	3以下	3.0	2.1	1.5	1.8	1.4	1.7	1.4	1.7	2.2	1.8	2.0	1.8	1.9
	COD (mg/L)	-	10以下	9.6	8.8	7.9	7.8	7.6	7.4	7.7	8.0	8.0	8.3	8.7	8.3	8.8
	SS (mg/L)	40以下	3以下	2.9	2.4	1.9	1.8	<1.0	<1.0	1.1	1.7	2.0	2.3	2.3	2.1	2.5
	T-N (mg/L)	-	3以下	2.3	1.8	1.7	1.7	1.6	1.3	1.4	2.3	1.8	1.7	1.9	1.6	1.6
	T-P (mg/L)	-	2以下	1.9	1.7	1.6	1.3	1.6	1.5	1.6	1.2	0.9	1.5	1.3	1.4	1.6
大和JC	BOD (mg/L)	13以下	4以下	3.8	2.4	2.4	2.1	1.9	1.7	1.4	1.3	2.1	2.0	2.0	2.7	3.1
	COD (mg/L)	-	12以下	10.5	9.4	8.9	8.6	8.9	8.6	8.1	8.1	8.8	9.0	9.4	9.7	9.9
	SS (mg/L)	40以下	5以下	3.8	2.3	2.4	1.3	<1.0	<1.0	1.2	1.5	1.8	1.8	2.0	2.3	2.4
	T-N (mg/L)	-	14以下	12	8.3	8.7	10.2	10.4	10.4	9.7	9.5	10.1	11.9	10.5	9.9	10.2
	T-P (mg/L)	-	3以下	2.3	1.8	1.7	1.6	1.8	2.1	1.5	1.8	1.9	1.9	1.9	1.6	1.9

原水水質悪化への対応

令和7年度は少雨や猛暑等の影響で、原水水質が悪化する傾向がみられた。
適切に対応を実施した結果、いずれも水質基準値を堅持した。

(1) 南部山浄水場（水源：七ヶ宿ダム）

①かび臭原因対策

7月～8月に流入した原水において、かび臭物質であるジェオスミンが増加傾向にあり、活性炭やPACの注入率を調整することで対処した。

②有機物増加対策

9月～10月に有機物が増加傾向にあり、送水中の塩素消費が多くなることが予想されたため、送水残留塩素濃度を都度調整することで対処した。

(2) 中峰浄水場（水源：鳴瀬川、南川ダム）

①かび臭原因対策

4月～6月、9月～11月にかけて、流入した原水において、かび臭物質であるジェオスミンや2-MIBの濃度の上昇がみられた。活性炭を適正に注入することで対処した。

②油臭対策

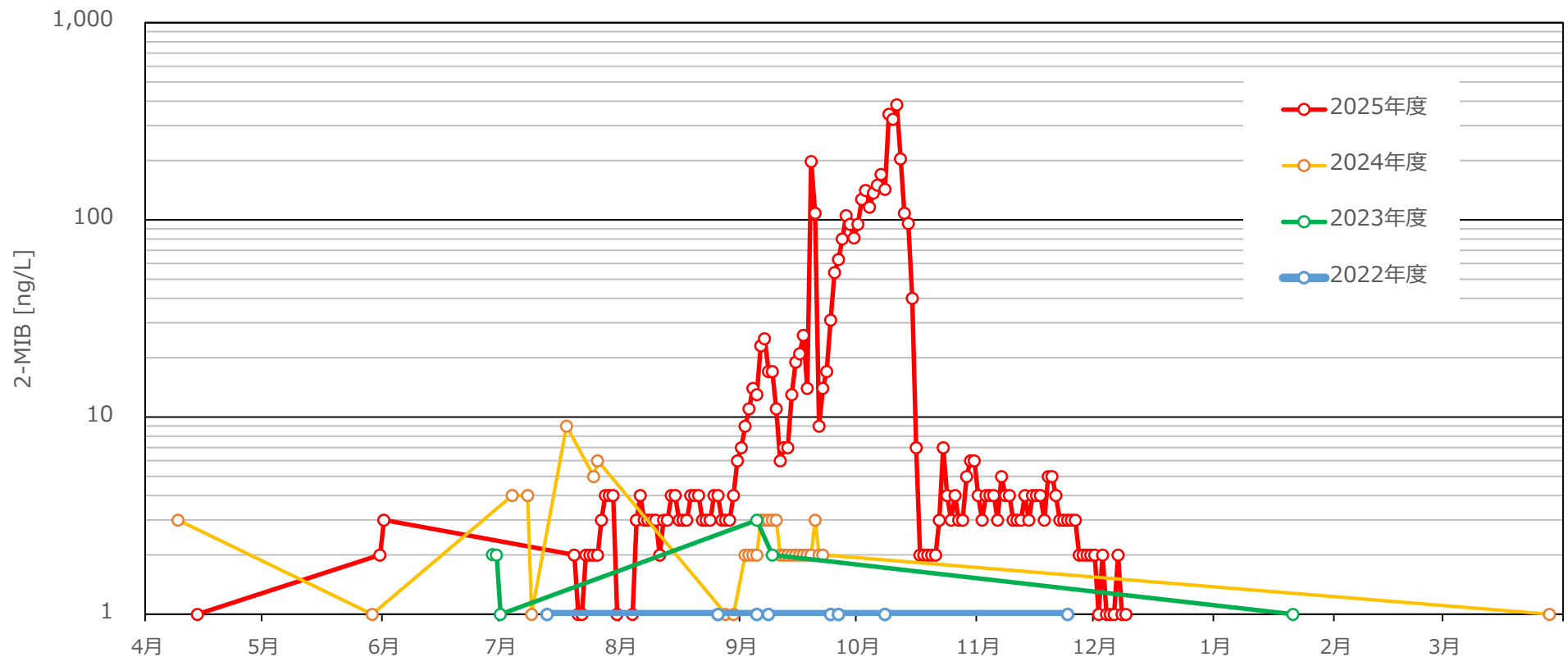
10月に上水路水で原因不明の油臭が確認されたため、導水管入口で粉末活性炭を注入しつつ、導水管内の水の入れ換えを行った。送水への影響はなかった。

原水水質悪化への対応

(3) 麓山浄水場におけるかび臭対応（漆沢ダム）

猛暑や少雨等の影響で、水源である漆沢ダムの水質が大きく変化したことで、浄水場の流入した原水においてかび臭成分（2-MIB）を検出したため、直ちに活性炭注入率を高めることで対処した。

⇒ **2-MIB濃度は、最大 383 ng/L まで上昇**（過年度は 10 ng/L 以下で推移）



1.維持管理業務報告 ②主なトラブルと対応

麓山浄水場におけるかび臭対応（大崎水道）

※経営審査委員会の審議を踏まえ、修正しました

対処

原水中のかび臭成分濃度上昇に伴い、活性炭注入および水質分析の強化を以下の通り実施した。

- ・ 6/30 かび臭成分が上昇傾向を示したため、活性炭注入を開始。
- ・ 7/27 着水井においてかび臭成分の一種である2-MIBが増加し、浄水の県基準値（3 ng/L）を上回る状況となった。
- ・ 9/19 着水井において過去に例のない水質変動を確認（127 ng/L）したため、対策本部を設置した。
- ・ 設備能力最大となる9 t /日の活性炭注入を実施した。株主企業の協力のもと全国より 活性炭を取り寄せ必要量を確保した。
- ・ 週7日（24時間体制）の水質分析に対応するため、みずむすび他事業所および株主企業より応援人員を派遣することで体制を強化した。
- ・ 10/23 2-MIBが減少傾向に転じ、緊急体制が不要になったため対策本部を解散した。
- ・ 11/24 2-MIBが県基準を下回った。水質の安定化を確認するまで活性炭注入を継続。
- ・ 12/9 水質の安定を確認したため、活性炭注入を停止した。

今後の課題

①設備上の課題

- ・ 活性炭注入設備の能力増強検討
- ・ 活性炭保管場所の確保

②作業場の課題

- ・ 中央監視では操作できず、現場盤対応による活性炭注入業務の負担軽減
- ・ スラリー溶解作業の効率化

2.改築業務報告

設計業務委託は計画9件中9件、改築工事は計画19件中17件を発注
改築計画に基づき工事を実施し、計画33案件中22件が完工
会計検査により交付金のこれまでの適正な執行を確認

2.改築業務報告 ①発注件数（設計・工事）

設計業務計画9件中「9件」、改築工事計画19件中「17件」発注

※赤文字は県内企業

事業名	設計 金額 (千円・税抜)	工事 金額 (千円・税抜)	主な発注先
大崎広域水道	44,700	531,300	設計) 日水コン、 復建技術コンサルタント 工事) 美和電気工業、前澤エンジニアリングサービス、 産電工業 、メタウォーター、西原環境
仙南・仙塩広域水道	74,600	1,189,310	設計) 日水コン、 復建技術コンサルタント 工事) 東洋電設ES 、メタウォーター、住友重機エンバイロメント
仙台圏工業用水および仙塩工業用水	20,500	44,000	設計) 日水コン、 復建技術コンサルタント 工事) 美和電気工業
仙塩流域下水道	18,400	1,456,913	設計) 東京設計事務所、 復建技術コンサルタント 工事) 南東北クボタ 、メタウォーター、メタウォーターサービス
阿武隈流域下水道	—	154,000	工事) 住友重機エンバイロメント、 産電工業
鳴瀬川流域下水道	3,450	115,000	設計) 三水コンサルタント 工事) 東洋電設ES
吉田川流域下水道	—	208,600	工事) アイ・ケー・エス 、 産電工業
合計	161,650	3,699,123	

※他工事との合併等により設計で1件、工事で2件前倒し発注があったため、設計発注総数は10件、工事発注総数は19件。

※発注延期理由：

三本木中継ポンプ場 No.2ポンプユニット改築工事（詳細調査の結果、健全度が高いことから工事発注を延期）

鹿島台浄化センター中継ポンプ場汚水ポンプ改築工事（改築費用低減対応（コストダウンのため他工事と合併））

2.改築業務報告 ②完工工事等

改築計画に基づく33件中「22件」が完工（合計工事費79億円）

上水の浄水設備、工水の大型送水ポンプ、下水の水処理設備などが竣工した。

事業名	主な完成工事名称	件数
大崎広域水道	麓山浄水場ほか沈殿池設備更新工事 等	5件
仙南・仙塩広域水道	南部山浄水場濃縮機械設備/フロック形成池/沈殿池更新工事 等	4件
仙台圏工業用水	熊野堂取水場機械設備更新工事	1件
仙塩工業用水	大梶浄水場脱水設備/鶴ヶ谷ポンプ場ほか機械設備更新工事 等	3件
仙塩流域下水道	仙塩浄化センター3系最終沈殿池・重力濃縮前設備改築工事 等	2件
阿武隈流域下水道	県南浄化センター沈砂池・消化設備更新工事 等	6件
吉田川流域下水道	大和浄化センター2系反応タンク・重力濃縮設備改築工事	1件

・激しい老朽化のため他工事に先んじて実施した「仙塩浄化センター場外管理施設監視制御設備更新工事」など2件が計画前倒し竣工。

・改築計画記載の竣工時期からの遅延理由（全11件）

水運用の突発変更（かび臭対応）による切替時期変更：1件【中峰浄水場次亜塩素酸注入設備更新工事】

機械機器詳細仕様の確定遅延影響による工期延長：1件【※熊野堂取水場および鶴ヶ谷ポンプ場電気設備更新工事】

老朽化した補器類の計画外の追加：1件【仙塩浄化センター 脱水汚泥貯留槽防食等改築工事】

電気機器の納期遅れ：3件【仙塩浄化センター 自家発、大和浄化センター 自家発、※仙塩浄化センター 電気設備】

機器調達元の経営破綻：1件【※仙塩浄化センター 焼却設備改築工事（その1）】

同種機器のトラブル対策を反映した機器仕様追加：1件【仙塩浄化センター 4号汚水沈砂池設備改築工事】

コストダウン目的による他工事との統合による竣工年度計画遅延：1件【県南浄化センター ※機械濃縮設備等改築工事】

物価上昇による予算調整影響：1件【大和浄化センター 汚水ポンプおよび水処理電気設備改築工事】

先行工事（2系）の入札不調影響による竣工年度計画遅延：1件【大和浄化センター ※3系反応タンク設備改築工事】

令和7年11月に県と共同で会計実地検査に対応

県：概要説明、当社：詳細説明の分担で共同実施

- ・ 検査対象は事業開始からの87案件、総額125億円分
- ・ 事業の実態を適切に説明するため、県と合同で想定問答などの事前準備を実施

検査結果

- ・ 適正な処理を確認（指摘ゼロ）
⇒国庫交付金を適正に活用し、適正な設計・
施工監理・予算執行が会計検査院によって
確認された。

次回の会計検査に向けて

- ・ 会計検査対応の準備を通じて、適切な国費執行のために必要な書類・考え方などを改めて認識した。
- ・ 今回得た知見を日常業務にも反映する。



県と実施した事前準備の様子

3. 経営管理業務報告

経営努力により計画比で増益
減価償却費の増加により前年度比は減益

3.経営管理業務報告 ①財務成績（法人）

年間計画比：供給水量および物価変動に伴う臨時改定により増収

利用料金収入の増加に連動した外注費等は増加したものの、
経費圧縮等※により増益を達成

※業務標準化等による効率化、リスクマネジメントによる予備費の未執行、広告宣伝費等の精査など

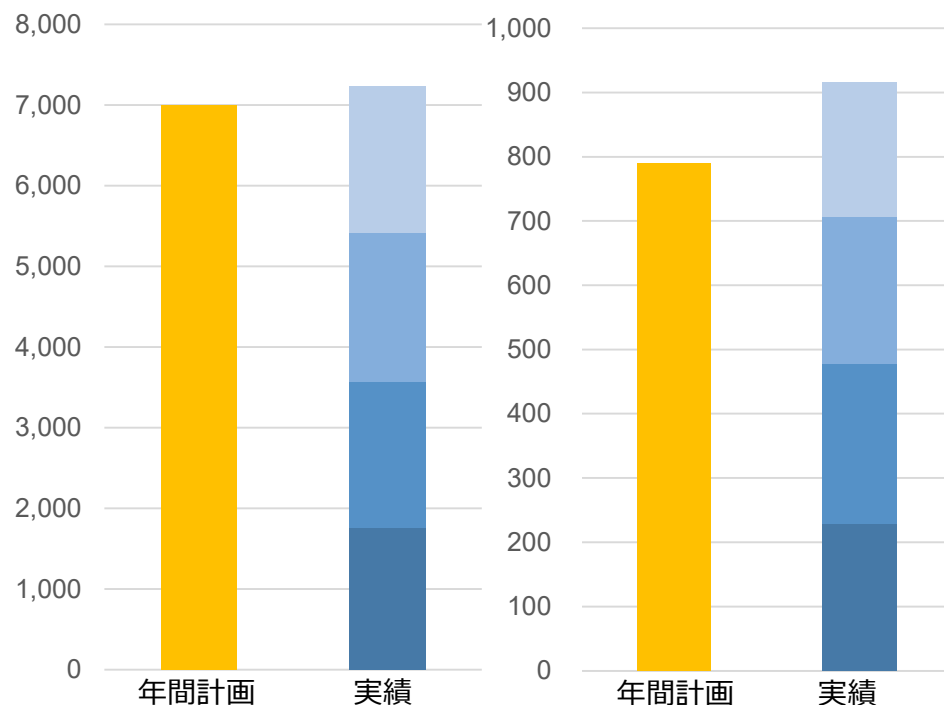
単位：百万円

単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期
■ 第3四半期 ■ 第4四半期

売上高

営業利益



財務数値 (損益計算書系)	年間 計画①	年間 実績②	②/①	前年 実績③	前年比 ②-③
売上高	6,991	7,235	103%	7,041	+194
売上総利益	1,058	1,140	108%	1,304	▲164
(売上高総利益率)	15.1%	15.8%		18.5%	
営業利益	790	916	116%	1,055	▲156
(売上高営業利益率)	11.3%	12.7%		15.2%	
経常利益	640	744	116%	933	▲199
(売上高経常利益率)	9.2%	10.3%		13.4%	
当期純利益	443	516	116%	646	▲148
(売上高純利益率)	6.3%	7.1%		9.4%	

※前年比の減益は上工水事業における減価償却費の増加によるもの（計画通り）

財務数値：財務健全性は高い水準を維持

単位：百万円

財務数値 (貸借対照表系)	前年 期末①	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末 ②	前年比 ②-①
現預金残高 (28億円以上)	8,017	7,408	7,475	7,713	6,886	▲1,131
純資産合計	5,821	5,954	6,170	6,411	6,598	+777
有利子負債残高	10,200	10,200	10,200	10,200	10,200	0
負債合計	11,852	11,018	11,278	11,945	12,542	+690
総資産合計	17,674	16,972	17,448	18,357	19,140	+1,466

財務指標	前年 期末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
流動比率	665%	1,363%	1,013%	627%	470%
DSCR (≥×1.3)	15.3	▲ 9.0	1.8	▲7.2	▲3.0※
有利子負債比率 (≤200%)	125%	122%	119%	115%	112%

※計画的投資の実施に伴い一時的にマイナスとなっているが、経営に支障はなし

3.経営管理業務報告 ①財務成績（予実比較：上水）

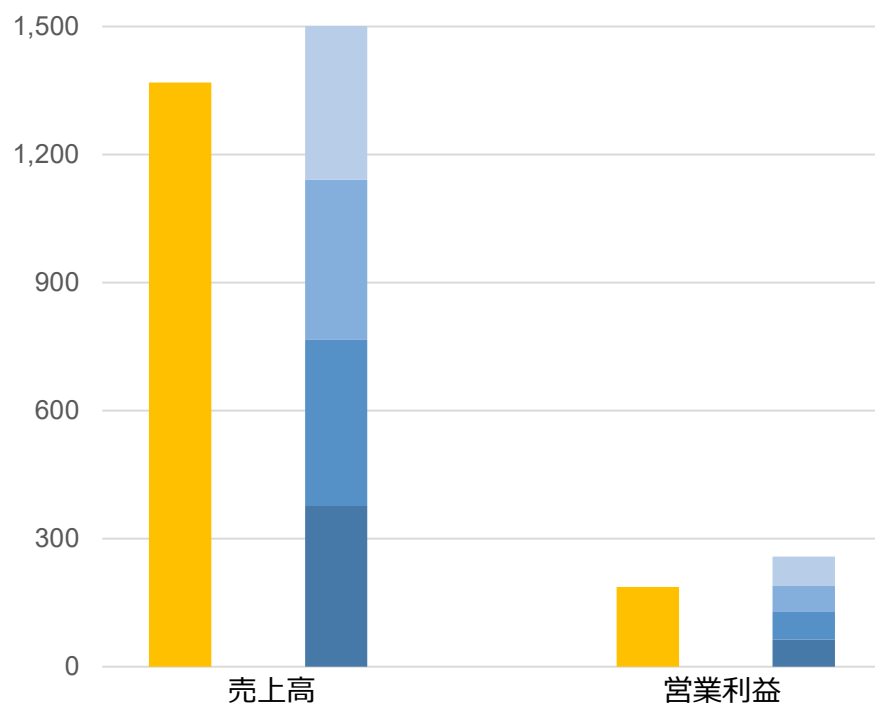
上水

供給水量増加に伴い、増収増益

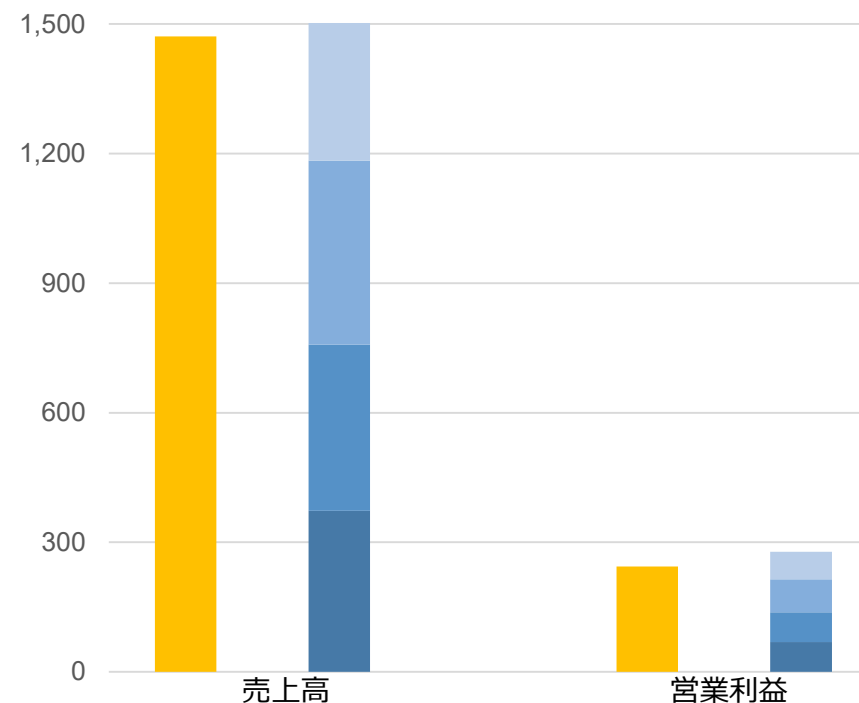
単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期
■ 第3四半期 ■ 第4四半期

大崎広域水道



仙南・仙塩広域水道



項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	1,369	1,537	112%	1,485	+52
営業利益	187	258	122%	397	▲139

項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	1,471	1,590	108%	1,510	+80
営業利益	244	278	114%	389	▲111

3.経営管理業務報告 ①財務成績（予実比較：工水）

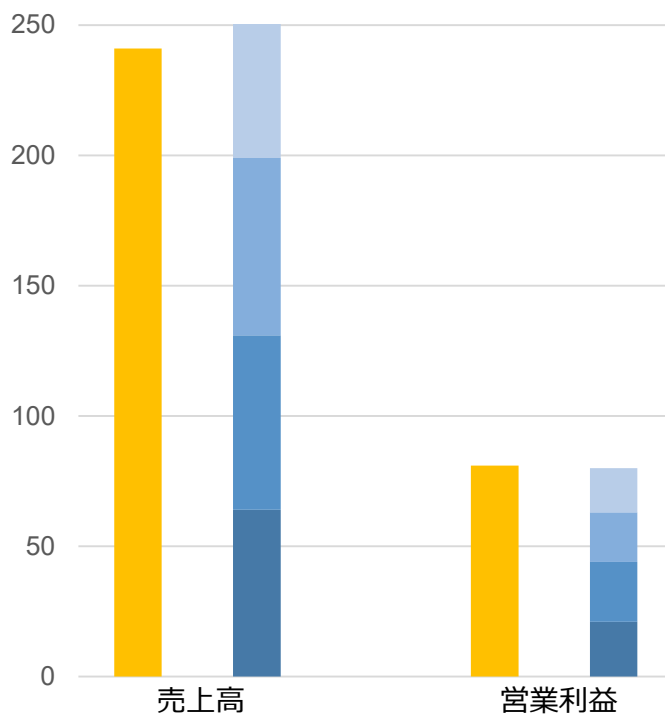
工水

概ね計画通りの実績

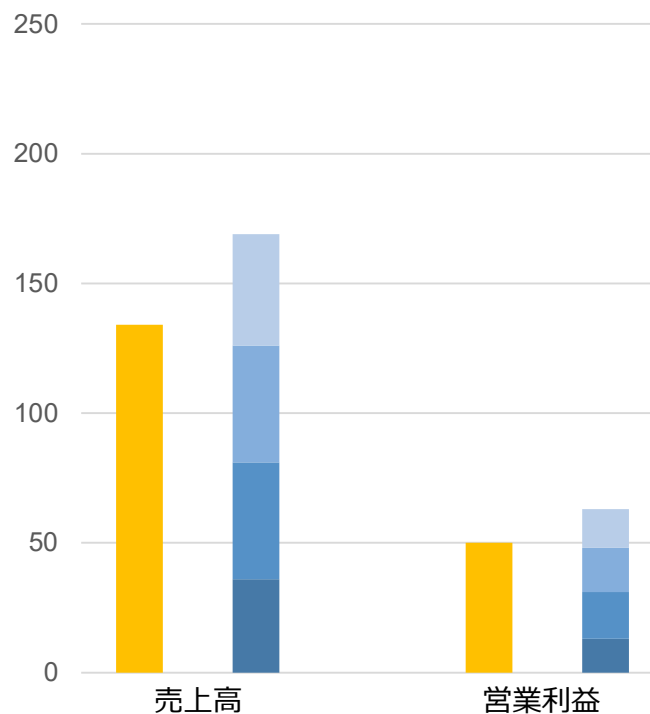
単位：百万円

■ 年間計画 ■ 第1四半期 ■ 第2四半期
■ 第3四半期 ■ 第4四半期

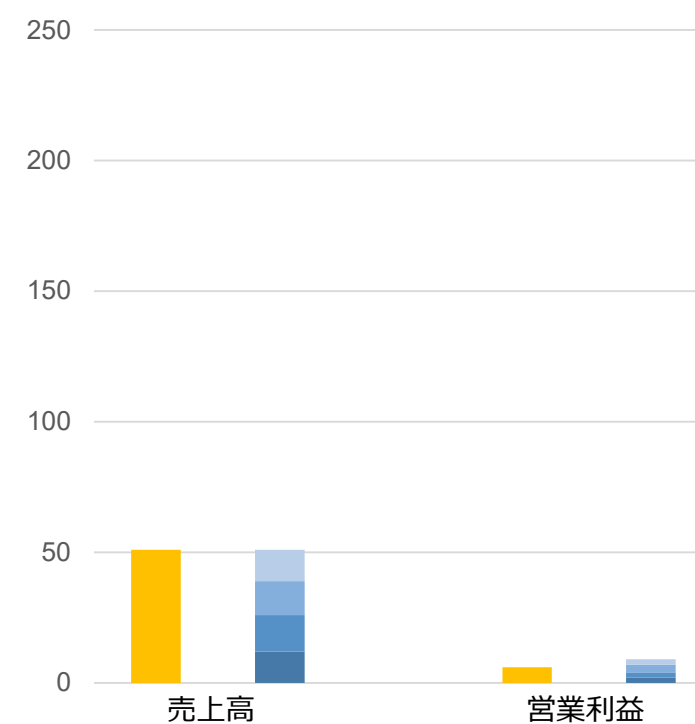
仙塩工業用水道



仙台圏工業用水道



仙台北部工業用水道



項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	241	266	110%	248	+18
営業利益	81	80	99%	85	▲5

項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	134	169	126%	140	+29
営業利益	50	63	126%	50	+13

項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	51	51	100%	51	0
営業利益	6	9	150%	9	0

3.経営管理業務報告 ①財務成績（予実比較：下水）

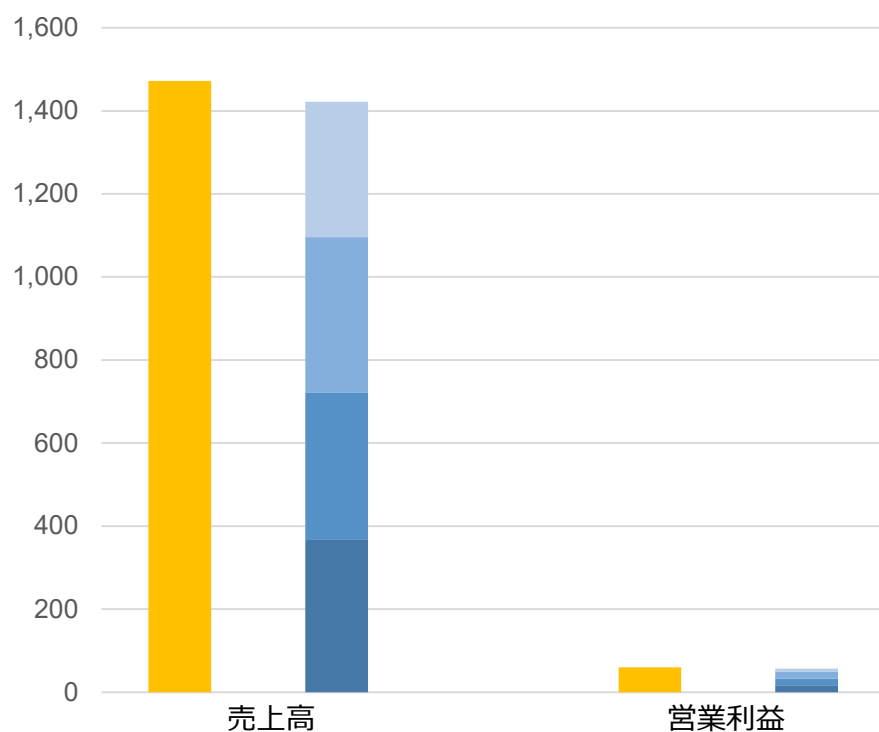
下水

事業全体として下水処理量が低めに推移

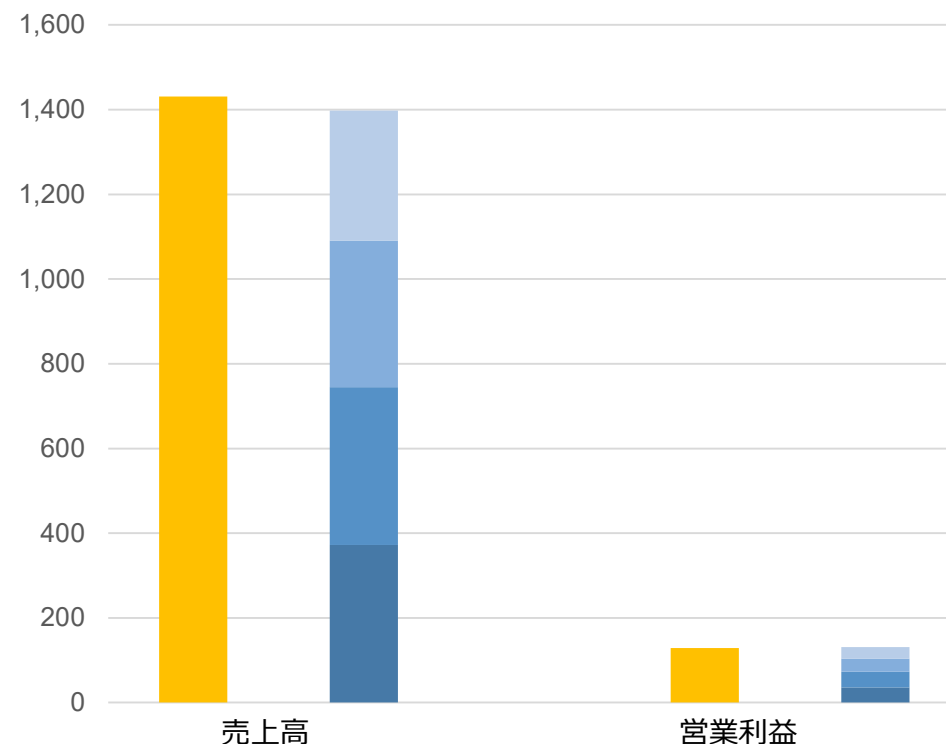
単位：百万円

■ 年間計画
 ■ 第1四半期
 ■ 第2四半期
■ 第3四半期
 ■ 第4四半期

仙塩流域下水道



阿武隈川下流流域下水道



項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	1,472	1,422	97%	1,329	+93
営業利益	60	57	95%	12	+45

項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	1,431	1,398	98%	1,328	+70
営業利益	129	131	102%	85	+46

3.経営管理業務報告 ①財務成績（予実比較：下水）

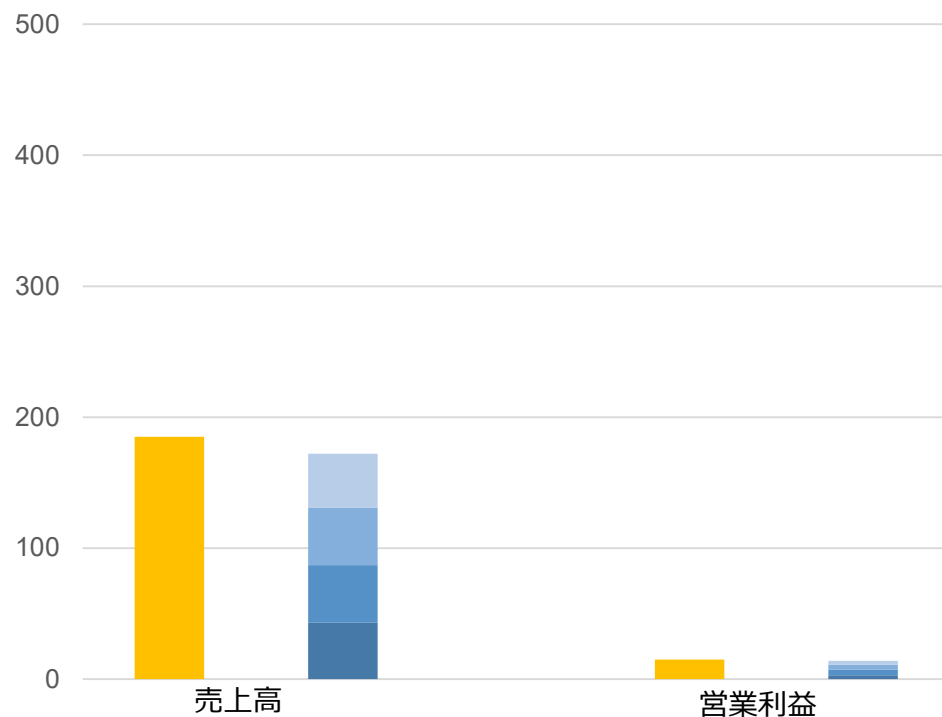
下水

事業全体として下水処理量が低めに推移

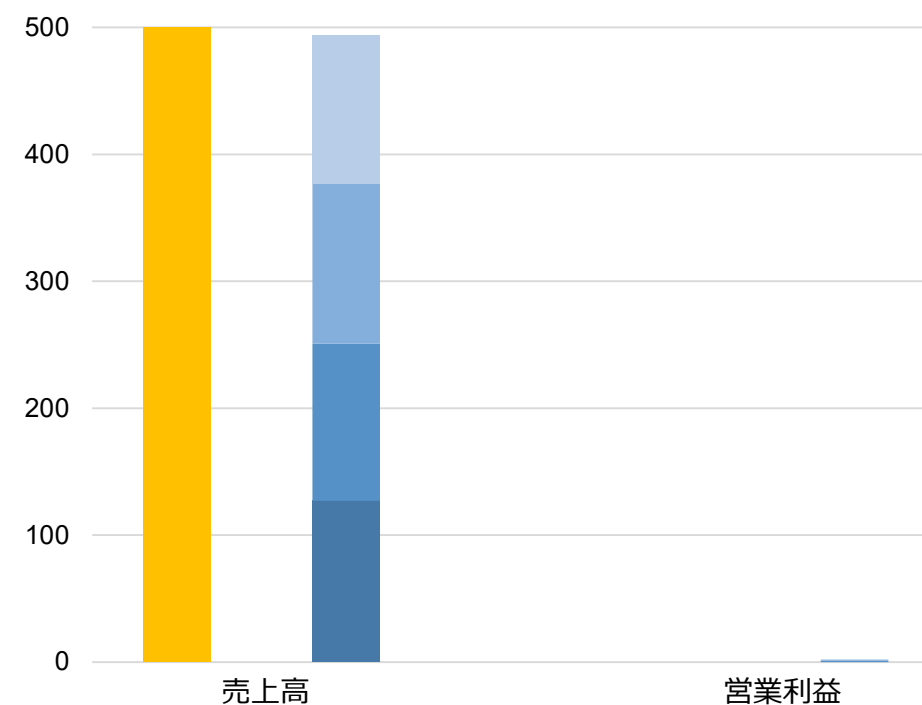
単位：百万円

■ 年間計画
 ■ 第1四半期
 ■ 第2四半期
■ 第3四半期
 ■ 第4四半期

鳴瀬川流域下水道



吉田川流域下水道



項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	185	172	93%	163	+9
営業利益	15	14	93%	15	▲1

項目	年間計画①	年間実績②	②/①	前年実績③	前年比②-③
売上高	500	494	99%	474	+20
営業利益	0	2	-	9	▲7

3.経営管理業務報告 ①財務成績（MSM）

財務数値：原水悪化を経営改善でカバーし、前年比増収増益

単位：百万円

財務数値 (損益計算書系)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期①	前年 通期②	前年比 ①-②
売上高	1,332	1,335	1,362	1,282	5,313	5,137	+176
売上総利益	170	67	89	95	423	192	+231
(売上高総利益率)	12.7%	5.0%	6.5%	7.4%	7.9%	3.7%	—
営業利益	123	25	54	51	254	25	+229
(売上高営業利益率)	9.2%	1.8%	3.9%	3.9%	4.7%	0.5%	—
経常利益	120	22	49	47	239	30	+209
(売上高経常利益率)	9.0%	1.6%	3.5%	3.6%	4.4%	0.50	+209
当期純利益	119	22	48	31	223	29	+194
(売上高純利益率)	8.9%	1.6%	3.5%	2.4%	4.1%	0.5%	—

※端数は百万円未満を切り捨てのため、第1～4四半期の合計金額と通期の金額が一致しない場合があります。

財務数値 (貸借対照表系)	前年度末 ①	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末 ②	前年比 ②-①
現預金残高	523	417	592	839	899	+376
純資産合計	370	325	347	396	428	+58
有利子負債残高	0	0	0	0	210	+210
負債合計	1,512	1,351	1,499	1,682	1,918	+406
総資産合計	1,883	1,676	1,847	2,078	2,346	+463

地域活性化につながる取り組み

(1) 地元企業への発注

- ・ 設計工事に関する地元発注率は金額ベースで18.8%（昨年度比9.7 pt減）
- ・ 点検修繕に関する地元発注率は金額ベースで21.5%（昨年度比1.0 pt減）

(2) 地域人材雇用率

- ・ MSMにおける令和7年度の地域人材雇用率は94.7%（昨年度比1.1 pt増）
- ・ 地域の高等専門学生に向けてインターンシップを開催、雇用促進に取り組んだ

(3) 上水の受水市町村にMDPを順次リリース

- ・ 受水市町村向けに「運転・水質に関わる情報発信機能」を付与

(4) 水の官民連携（ウォーターPPP）を背景に、七ヶ浜町と業務委託契約を締結

- ・ 七ヶ浜町と業務引継ぎを実施、令和8年度の事業開始に向けて準備を行った
- ・ 引き続き、県内市町村から相談があった場合は対応する方針である

みずむすびフェス（下水道まつり）

上工下水道事業への理解促進と地域貢献を目的に開催した。
多くの地域の皆様に参加いただいた。

9/13 仙塩浄化センター : 719人

9/27 県南浄化センター : 981人

10/11 大和浄化センター : 679人

※いずれも関係者を含む



会社紹介・実験



地域団体による太鼓演奏



はたらくるくるま体験



見学ツアー



微生物観察



大抽選会

見学者の受け入れ

単位：人

事業名		R6年度 ①	R7年度 ②	増減 ②-①
上水	大崎広域水道用水供給事業	685	654	▲31
	仙南・仙塩広域水道用水供給事業	455	435	▲20
工業水	仙塩工業用水道事業	252	50	▲202
	仙台圏工業用水道事業	0	0	±0
	仙台北部工業用水道事業	0	0	±0
下水	仙塩流域下水道事業	124	298	+174
	阿武隈川下流流域下水道事業	219	249	+30
	鳴瀬川流域下水道事業	7	0	▲7
	吉田川流域下水道事業	68	50	▲18
本社		33	7	▲26
合計		1,843	1,743	▲100



**対応件数（団体数）
64件**

- ・全ての希望者を受け入れた。（クマ出没の懸念により中止となった見学は除く）
- ・受入れ団体数 64件（昨年度比 13団体減） ※見学者数の約80%が近隣小中学校の社会科見学

水の教育プログラム

（１）宮城県教育応援団マッチング会議参加

- ・ 6/5 大河原合同庁舎にて当社の水の教育プログラムの紹介
（施設見学・出前授業・下記バスツアー・みずむすびフェス）



マッチング会議

（２）自由研究バスツアー

- ・ 施設見学、実験を通して水インフラの役割を紹介
- ・ 7/31@七ヶ宿ダム、南部山浄水場
- ・ 参加者：47人（小学生を対象に保護者含む）



自由研究バスツアー

その他協賛・ボランティア活動等

- ・ 清掃ボランティア活動（合計52回）
- ・ 広報誌 Vol.7：R7年6月発行、Vol.8：R7年12月発行
- ・ 水道週間・下水道の日のパネル展@県庁
- ・ メディア掲載（新聞等17件、テレビ4件）



『水結便（みずむすびん）』

(1)令和7年度企業局総合防災訓練 6月

- ・宮城県と合同で訓練を実施
- ・MDPを活用した情報一元管理
⇒全機場の被害状況を情報収集の上、本社から指示
⇒県とリアルタイムで情報共有を行い、連絡を取り合う



MDPによる情報管理

(2)関係機関との合同訓練

- ・緊急時の連携強化を図るために市町村等と合同で訓練を実施
高区調整池・緊急給水装置設置訓練（県主催）6月
令和7年度日水協東北地方支部合同訓練（日水協主催）8月
給水車の実践訓練（みずむすび主催）9月



給水車の実践訓練

(3)みずむすびアカデミー

- ・次世代を担う地元企業及び地域人材へノウハウや技術を継承
- ・“水”に関わる地元企業や県職員、市町村職員を対象とし実施
ヒューマンエラー対策研修（4月20日、5月20日）
安全教育・技術教育・講習会を複数回実施



幹線流量計に関する教育

法人としての内部統制状況

- (1) 取締役会** 11回開催（みなし決議含む）
 - ・ 予決算・事業計画の承認や職務執行状況報告
 - ・ 特に関係会社間取引については利益相反を念頭に重点的に確認
- (2) 監査等委員会** 3回
 - ・ 年度決算の監査、会計監査人の委託報酬や監査計画の決議等を実施
- (3) 会計監査人による監査** 1回
 - ・ 通期決算の監査だけでなく、四半期決算等の通常業務でも連携
- (4) 親会社による内部統制評価** 2回
 - ・ J-SOX法に基づく内部統制が有効と判断された
- (5) 内部監査** 1回
 - ・ 親会社の監査室による内部監査にて指摘事項無し

システムが適切に維持運用され、健全な内部統制状況が保たれていることが確認された

改善モニタリング委員会を開催（7月）

当社が外部から招聘した有識者委員が、運転管理手法などの技術的な改善事項について議論を行い、ご経験を踏まえた提言を頂いている。

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	大村 達夫	東北大学未来科学技術共同研究センター 名誉教授
委 員	今野 弘	東北工業大学 名誉学長
委 員	渡部 徹	山形大学農学部 学部長
委 員	内田 貴志	公益財団法人水道技術研究センター 浄水技術部長
委 員	藤本 裕之	公益財団法人日本下水道新技術機構 資源循環研究部長

<主な論点>

上水：消毒副生成物の分析において着目すべきデータについて

下水：雨天時侵入水による処理水量増加の対応について

下水道法施行令にて追加となった大腸菌数について

処理場の周辺環境への配慮（臭気対応など）について



モニタリングにおける指摘事項は全部で4件

(1) 4月 任意事業（小水力発電事業）

- ・発電事業者が事前の手続きを経ずに受水自治体へ水量変更の調整を実施。
⇒任意事業の位置づけと各種契約内容を指導。また、ガバナンス体制について、当社およびMSMの承認のもとで市町との協議を実施するよう管理体制の見直しを実施。

(2) 6月 全事業 維持管理報告書の提出遅れ

- ・要求水準に定める提出期限（月末から15日以内）を1日超過した。
⇒文書管理システム上における承認プロセスの停滞が原因のため、自動通知機能を強化。
複数名によるクロスチェック体制を構築し、組織的な再発防止を徹底。

(3) 8月 大崎広域水道用水供給事業 リスク管理対応の不備

- ・中峰浄水場にて総トリハロメタンが0.042mg/L検出された。管理目標値（0.045mg/L）を下回っているものの、県基準未達の恐れがあった際の対応に見直しの余地があった。
⇒水質分析の結果が管理目標値に近い値となった場合は、必要に応じて再試験を速やかに実施し、県と情報共有を行う。

(4) 年間業務報告書の提出遅れ

- ・要求水準に定める提出期限（年度末から90日以内）を1日超過した。
⇒提出期限を、誤って認識していたことが原因。県との期日事前確定の義務化、期日マスター台帳による管理、部署内教育の実施により再発防止を図る。

令和7年度の県民からの意見等：4件 いずれも連絡を受け、適切に対応を実施

事業名	施設名	意見等 受付日	意見等の内容	意見等 対応日	対応内容
仙塩流域 下水道事業	仙塩浄化 センター	4/18	地域住民より、北側境界線から私有地 へ樹木の枝が張り出しているとの連絡	4/22	連絡を受け、速やかに枝の剪定・伐採を 実施した。また、草木の繁茂に対応する ため、8月上旬に敷地境界付近の剪定・伐 採を再度実施した。
仙塩流域 下水道事業	仙塩浄化 センター	7/23	地域住民より、関係市および県事務所 を経由した、臭気に関する問い合わせ	7/24-25	臭気測定を実施したが異常はなく、その 結果を中南部下水道事務所へ報告した。
阿武隈川下流流域 下水道事業	大河原ポンプ場	12/6	樹木の枝が敷地外へ張り出しているとの 指摘	12/6	連絡を受け、速やかに枝の剪定・伐採を 実施した。
仙南・仙塩 広域水道事業	南部山浄水場	3/30	地域住民より工事車両の危険運転、お よび浄水場北側道路での不法投棄の2 点についての連絡	3/30	仙南・仙塩広域水道事務所へ報告し、危 険運転車両は県管轄の工事関係者である ことが判明。また不法投棄と当社との関 連性の特定には至らなかったが、従業員 への周知を図った。なお県事務所におい ても職員や工事関係者へ周知が実施され、 その旨が地域住民へ説明された。

4. その他事業・業務に関する報告

1 事業を除いて順調に進捗している

事業名	事業者	概要	実施場所	事業化 (R8.3時点)
小水力発電	株式会社 日水コン	施設が有するエネルギーポテンシャル(水量、落差)でクリーンな発電を行う	名取テレメータ室	稼働中
			柴田船迫テレメータ室	稼働中
			角田江尻テレメータ室	稼働中
			多賀城テレメータ室	事業化検討中
太陽光発電の 場内利用	株式会社みずむすび サービスみやぎ	未利用地に太陽光パネルを設置し、場内で利用する	仙塩浄化センター	稼働中
			県南浄化センター	R8.5 事業開始予定
浄水発生土の 有価利用	株式会社みずむすび マネジメントみやぎ	浄水発生土を不溶性土壌改良材の原料として有価利用する	麓山浄水場 (南部山浄水場・ 大槻浄水場)	R8.4 事業開始予定
ダイヤモンド レスポンス契約	株式会社みずむすび サービスみやぎ	電力使用量を減らし、電気の需給バランス調整のために必要な電源を提供する 今後のスケジュール ・ R8 実効性テスト ・ R9 本契約締結 ・ R10 事業実施	麓山・中峰浄水場 仙塩・県南・大和 浄化センター	R10.4 事業開始予定
藻類培養と バイオマス燃料産出	事業化検討中			

関連業務：年1回報告書を提出

(1)用地や施設の一時的な使用承諾 令和7年度：上水6件、下水12件

(2)研究機関等からの試験研究協力 令和7年度：上水2件、下水6件

(3)市町の要請に応じた第二受水テレメータ室の修繕・改築

令和7年度：10件の修繕・改築工事を実施

(4)県汚泥の受入れ及び処理

石巻JC・石巻東部JCの汚泥を、仙塩JCで焼却処理（5,206t/年）

貸付業務：年1回報告書を提出

(1)転貸義務のある貸付 計21契約：変更なし、主に電柱設置用地の貸付

(2)新規の貸付

令和7年度は宮城県企業局と転使用貸借契約書を新たに1件契約

県南浄化センターにおけるAB-Cross実証実験によるもの

(3)県への貸付と保守業務

保守点検は全て当社（委託先：みずむすびサービスみやぎ）

5. 課題認識と見通し

課題認識	次期以降の見通し
① エネルギーコストの最適化と再エネ導入の推進	・ 県南浄化センターの太陽光発電稼働や各種省エネ活動を推進することで、電力消費量削減に努める。 ・ みずむすびサービスみやぎにおいて、その他費用の圧縮にも努める。【継続課題】
② 重要インフラにおける情報セキュリティの強靱化	・ サイバー攻撃等脅威の高度化に併せて、マニュアルのブラッシュアップを継続のうえ、全事業の統合型監視制御システムの完成に合わせて正式運用へ移行する。【継続課題】
③ 中央監視装置更新におけるメーカー固有仕様への対応	・ 関係企業と適宜情報共有を行い不具合の早期解消を図り、令和8年度中の全機場での更新完了を目指す。【継続課題】

課題認識	次期以降の見通し
④ 小水力発電3ヶ所の安定運用と残り1ヶ所の開始に向けた計画整備	・ 稼働中3ヶ所は水質・水量のリスク低減を図る ・ 残り1ヶ所は、令和8年度の発電開始を目指す。 【継続課題】
⑤ 県南における太陽光発電事業の令和8年開始に向けた建設の推進	・ 県南浄化センターにおいて、令和8年5月の発電開始を目指す。仙塩と合わせ2拠点での安定した電力供給体制を構築する。【継続課題】 ※令和8年5月より計画通り稼働中
⑥ 浄水発生土有効利用の令和8年度開始に向けた準備	・ グラウンド用土壌改良材の製造・販売を実施する。 【継続課題】
⑦ 水の官民連携（ウォーターPPP）を背景とした七ヶ浜町との契約に基づく、事業開始に向けた業務引継ぎ	・ 令和8年度事業開始に向けて、体制構築と安定化を図る。 ・ 県内他自治体からの連携相談にも対応する方針。 【継続課題】

課題認識	次期以降の見通し
⑧ DX化の推進に関して、 上水の受水市町村と情報 共有訓練を実施	大崎広域および仙南・仙塩広域水道において、MDPを活用した「水質事故を想定した情報共有訓練」をそれぞれ2回実施し、運用上の問題がないことを確認した。【完了】
⑨ 地元企業への発注	設計・工事ともに参入機会拡大に向けた取り組みを継続することで、地元発注率の向上を図る。【継続課題】
⑩ 中東情勢の影響による、 薬品・潤滑油・塗料や燃 料等の価格高騰・供給遅 延リスクへの対応	在庫確保に努めるとともに、株主の調達ルートを含めた複数の仕入れ先確保により事業運営への影響を最小化する。【新規課題】

課題認識	次期以降の見通し
① ダム工事排水による水質事故の恐れ	ダム完成（令和18年予定）まで重金属等の水質試験を水質管理計画へ追加し監視強化のうえ、工事関係機関との緊急連絡体制を整備する。【継続課題】
② 異常気象に伴うかび臭原因物質増加への対応	藻類発生時期の5月～10月に水源調査を実施する。水質データに基づき適切な活性炭注入管理と在庫管理を図る。【継続課題】
③ 末端受水点における送水残留塩素管理	消毒副生成物の発生に留意しつつ、各受水点の残留塩素管理に一層の注意を払い適切に管理する。【継続課題】
④ 地震による浄水池漏水の復旧工事で片系停止	南部山浄水場のNo.1浄水池は令和8年6月復旧予定であり、No.2浄水池漏水の懸念も含め、早期の2池運転に向けて県に協力する。【継続課題】
⑤ 沈殿池工事期間中の供給水量制限	南部山浄水場のNo.4沈殿池がR7年12月～R8年8月まで休止。3/4の沈殿池が稼働しているため平常時は問題ないが、送水量調整の要請については、予め受水市町と情報共有し工事の影響を最小限に抑える【継続問題】

課題認識	次期以降の見通し
① 流量記録計の消耗品管理と業務効率化を図る	従来 of 流量記録紙とスマートメーターによるクラウドデータの比較検証を継続するとともに、導入に向けて県との協議を進める。【継続課題】
② 給水量増加により電力不足	仙塩工水が給水不能な期間は、熊野堂取水場から給水する。一時的に給水ポンプ2台運転が必要となり、停電時でも運転を可能とするため、移動電源車の活用や発電機増設を含む電力確保策を検討する。【継続課題】
③ 藻類増加によるユーザーの膜ろ過の閉塞問題（仙台北部）	- 令和7年度は閉塞に関するユーザーからの連絡は無し。 - 濁度低減処理施設の清掃を実施するとともに、工水配水出口で週1回の定期的なプランクトン検鏡を継続し、傾向の把握に努める。【継続課題】

課題認識	次期以降の見通し
① 施設老朽化および市況変動に対応した改築計画の最適化	改築・修繕計画の見直しにより工事費の削減を実現した。引き続き健全度評価に基づく計画の見直しを実施することで最適化を図る。【継続課題】
② PCB含有機器の調査と処分	当該機器を撤去した際の対応方針を決定した。分析作業は当社が、保管・管理・運搬・処理等に係る費用は県が負担することとし、適正な処理を行う体制を整えた。【完了】
③ 電気室高温化による過熱トラブルの懸念	空調設備の設置にあたり、夏季最高室内温度を把握しJEM/JIS基準と照合させることで改善箇所の選定を進める。【継続課題】
④ 脱水ケーキ貯留施設建設の住民説明意見の反映と工事の着手	施設建設にあたり近隣住民からの意見を反映。令和8年8月ごろより工事に着手。令和9年9月の運用開始を目指す。【継続課題】

6.令和8年度事業トピックス

地元企業及び地域人材への技術継承

みずむすび構成員が有する多様な経験やノウハウを、次世代を担う地域人材に継承していくため「**みずむすびアカデミー**」を運用しています。

当アカデミーは、当社関連企業だけではなく、“水”にかかわる地元企業や、県職員・県内市町村職員を対象とし実施しています。

令和8年度実施例（8月以降も随時メニューを追加）

メニュー	内容	実施日	参加者		
			県	市町村	協力企業 地元企業
ヒューマンエラー対策研修	人はなぜエラーを起こすのか、ヒューマンエラー対策の概念・防止法、ケーススタディなどテキストを用いた研修	4/18,23 5/12	○	○	○
計装設備機器技術研修	流量計及び水位計全般の基礎知識、実機を用いた作業体験、ループ試験、故障診断等	6/25,26	-	-	-
安全衛生教育	低圧電気作業教育（学科・実技） 酸素欠乏危険作業特別教育 刈り払い機取り扱い教育 フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	5/14,15 5/29 6/4 5/21	○	-	○
上水用水質計器に関する教育	水質測定機器（濁度計・pH計・残留塩素計）の使用目的、測定原理、保守管理および実機を用いての校正等に関する教育	8/21予定	-	-	-

MDPによりデータを集約して、運営や透明性確保に活用



1

事業運営データを一元集約

- 事業運営において生み出されるデータを3事業（上水、工水、下水）一体でMDPに集約、蓄積
- 事業全体でのデータ活用により、業務プロセスを内外から可視化し、サービス水準の向上を図る

2

安全・安心・安定の事業運営を支援

- 蓄積データを有機的に結び付け、様々な機能（アプリケーション）において活用
- 業務の効率化や安全・安心・安定に資する付加価値を創出

3

事業運営の透明性を確保

- 事業運営の履歴をMDPに記録し、システム上にて共有することで、事業運営の透明性を確保するための情報提供を行う

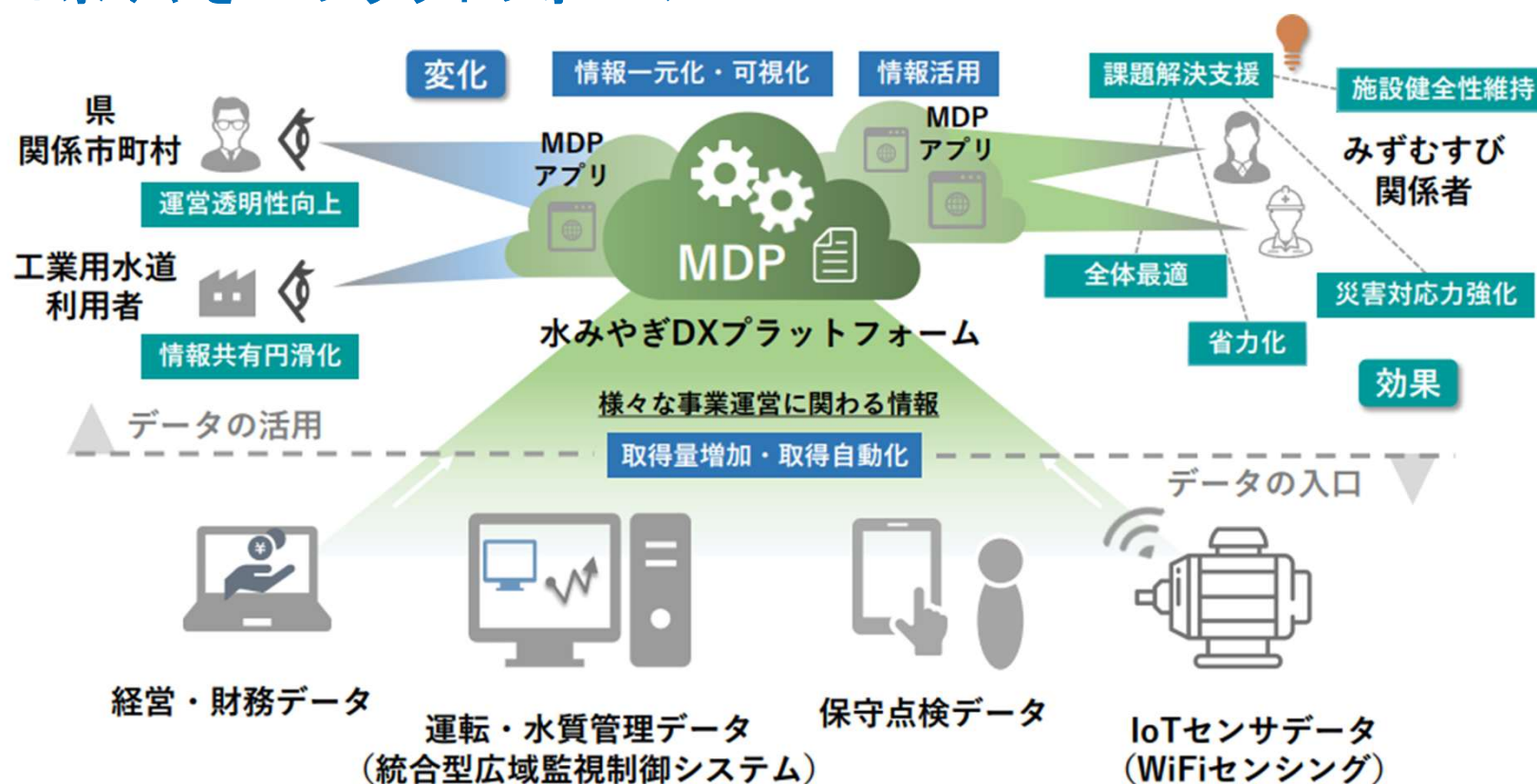
主要な施設において中央監視装置の更新が完了

令和8年度は流域下水道事業および工業用水道事業の更新工事に着手する。

更新完了した施設から順次システム連携を開始し、データ管理体制を構築。



MDP：水みやぎDXプラットフォーム



工水ユーザー向けポータルサイトの開設

大樋浄水場の中央監視装置更新（令和9年1月目途）に併せて、ポータルサイトを活用した工水ユーザーとの情報共有を開始予定。

機能概要

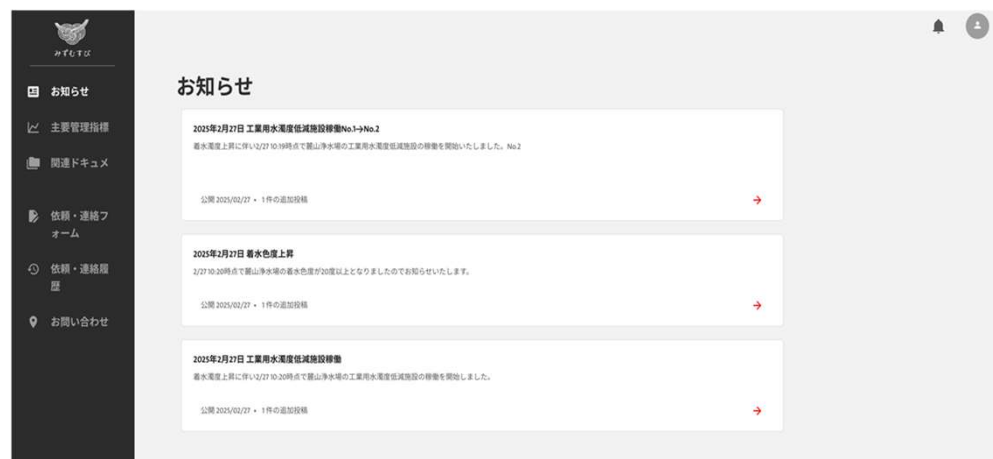
お知らせ：みずむすびからの情報を迅速に共有

主要管理指標：主要管理指標（濁度やpH等）のデータをグラフで表示

配水濁度通知メール：配水濁度の上昇と低下を自動メールで通知

関連ドキュメント管理：MDPユーザーガイド等のファイルを共有

依頼・連絡フォーム：送水量変更等のお問い合わせの受付



AI(機械学習)を活用した状態診断ソリューションの導入開始

異常兆候の高感度・早期検知

AIが複数の因子を考慮し、状態をカテゴリ分類することで、従事者が気づくことが困難なごくわずかな定常時との差異を判別可能。

⇒点検・修繕を早期実施することで突発修繕を低減

運転判断の蓄積・標準化

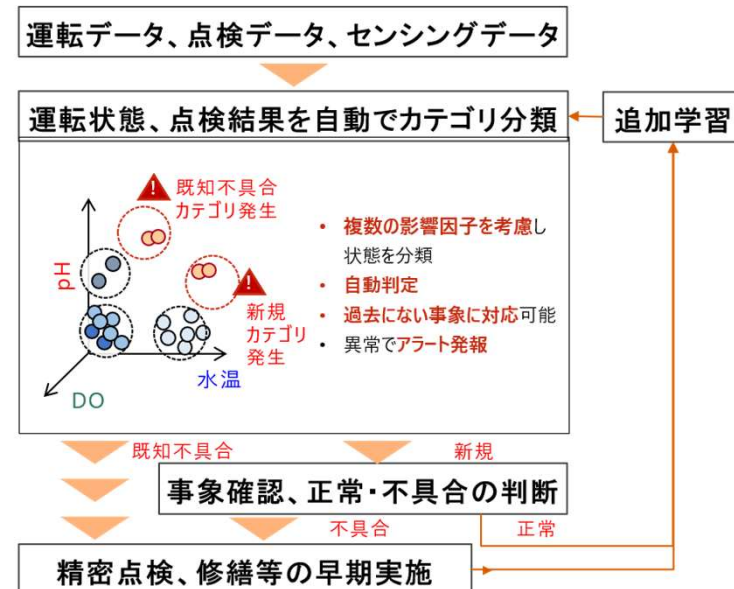
流入条件・操作・処理結果をAIがそれぞれカテゴリに分類して蓄積し、熟練者の判断傾向を蓄積。

蓄積されたデータから運転操作をガイド表示でサポート。

⇒ノウハウを継承し安定したプラント運転に活用

特定個人への負荷集中を抑制し、働き方改革にも寄与

R8年度中に**仙塩浄化センターに導入予定**



「この条件の時に」「こうしたら」「こうなった」を蓄積

流入カテゴリ	操作カテゴリ	操作割合	処理結果カテゴリ		
			① (良好)	② (許容)	③ (不良)
①	①	75%	95%	5%	0%
①	②	25%	25%	65%	10%
①	③	0%	-	-	-
②	①	10%	0%	100%	0%
②	②	80%	90%	10%	0%
②	③	10%	20%	20%	60%
⋮	⋮				

流入条件をカテゴリから自動で判断
最も割合高く設定されている操作をガイド表示

現在の流入条件で最も選択される操作(運転条件):

送風倍率: ○○倍

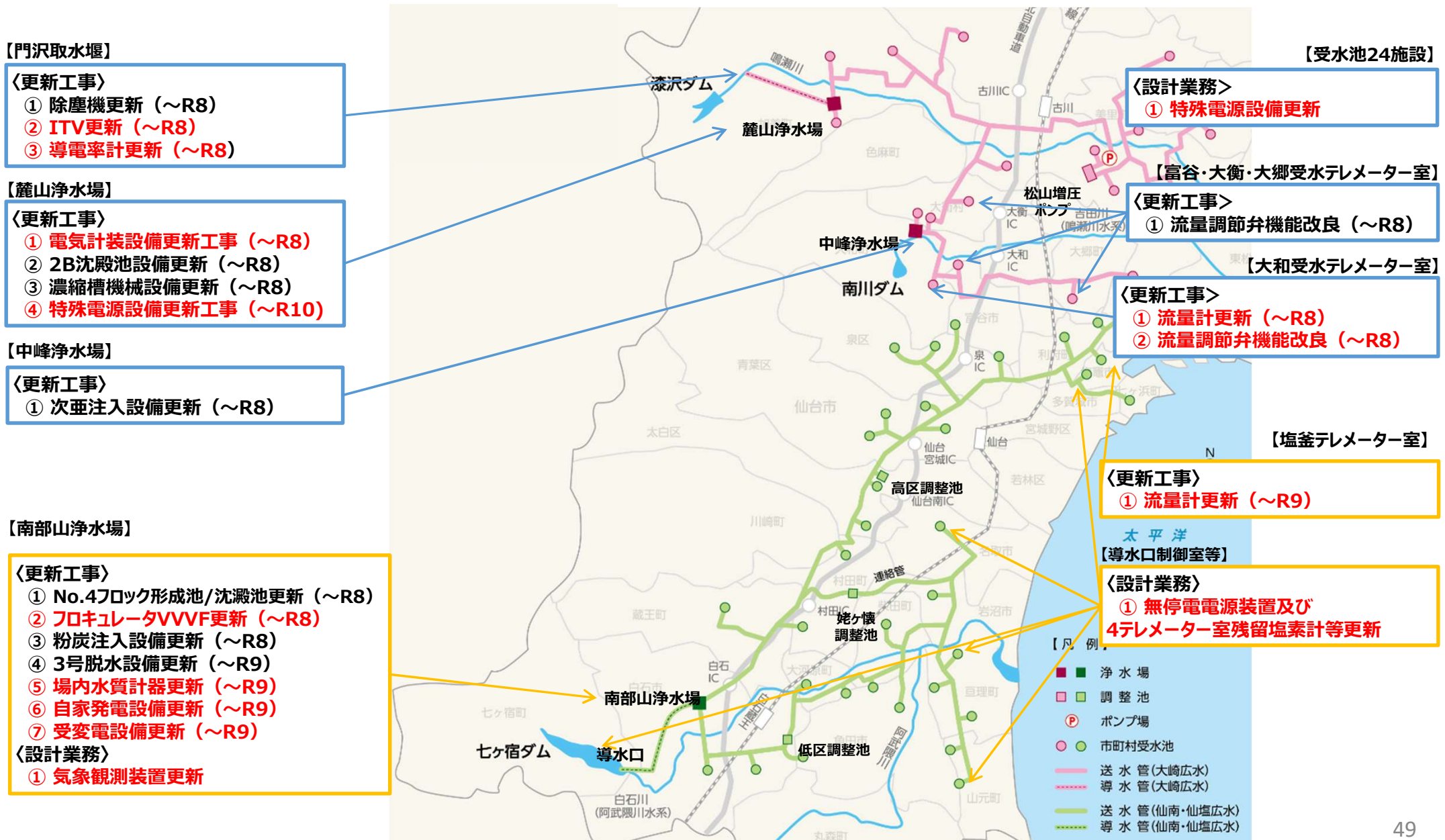
⋮

適用割合: 75%

操作結果が良好であった割合: 95%



機械設備の更新工事が収束、電気計装設備の更新が中心に



【門沢取水堰】

- ① 除塵機更新 (～R8)
- ② ITV更新 (～R8)
- ③ 導電率計更新 (～R8)

〈更新工事〉

- ① ITV設備更新（～R8）
②特殊電源設備更新（～R10）

〈更新工事〉

- ① 監視制御設備更新（～R8）
- ② 無線設備更新（～R8）
- ③ 場内流量計（～R9）

① 油分モニター更新（～R8）
② 取水流量計・濁度計更新（～R9）

① 監視制御設備更新（～R8）
② 水位計、水質計更新（～R9）

① 監視制御設備更新（～R8）

- ① 監視制御設備更新 (～R8)
- ② 運転操作設備更新 (～R8)
- ③ ITV設備更新 (～R8)
- ④ 油分モニタ更新 (～R8)



中央監視制御設備が今年度全事業で竣工予定 各事業で工事物量減少傾向も、仙塩は未だ繁忙



太陽光発電：県南浄化センターにて発電開始

(1) 事業者

株式会社みずむすびサービスみやぎ

(2) 目的

遊休地を有効活用し、太陽光発電した電力を
場内利用する。

昨今のエネルギー価格高騰による負担を軽減。



太陽光発電設備

(3) 取り組み

令和7年より供用開始した仙塩浄化センターでは、計画を上回る**3,150 MWh**を発電
令和8年5月より**県南浄化センターで発電開始**

実施場所	供用開始	年間発電量（計画）	削減効果（計画）
仙塩浄化センター	令和7年4月	2,994 MWh	年間消費電力の約14%
県南浄化センター	令和8年5月	2,143 MWh	年間消費電力の約18%

浄水発生土の有価利用：令和8年度より本格始動

（１）事業者

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ

（２）目的

浄水場内の空きスペースを有効活用するとともに、浄水発生土を不溶性土壌改良材の原料として有価利用することで、産業廃棄物処理費用の低減を図る。

（３）取り組み

令和7年度に開始予定だったが、麓山かび臭対応で注入した多量の活性炭により、土壌改良材原料として不適となったため、事業開始を見送っていた。

事象の収束に伴い、**令和8年度より事業を開始**。販売に向けて事業を進めていく。



プラント全景



土壌改良材の原料に加工

地域連携事業：七ヶ浜町污水ポンプ場等包括管理業務委託

七ヶ浜町下水道包括業務委託

- 七ヶ浜町との引継ぎ及び施設機能確認を計画通り完了
- 施設の老朽化対策に向け、町と緊密に連携し包括委託を推進
- 本社に統括責任者、仙塩浄化センターに維持管理責任者等の体制を構築
- 区分経理ルールやB C Pを策定することで、義務事業との区分を明確化
- 本事業に関する経理区分を明確化したうえで、適切な財務管理を実施
- スtockマネジメント計画策定支援に向け町と協議

その他（県内広域連携の動向）

- 県内自治体の関心は高い
(年度報告時に当該事業への質問多数)
- 要求水準書等に基づき、問い合わせがあれば順次対応する方針

施設地図



町事業

- 汚水ポンプ場
- マンホールポンプ
- 管きよ（幹線）

県事業

- 仙塩流域下水道事業 施設
- 仙塩浄化センター
- 管きよ

みずむすびフェス・自由研究バスツアーを開催予定

【みずむすびフェス2026】

9月12日（土）仙塩浄化センター
10月17日（土）県南浄化センター
10月24日（土）大和浄化センター

浄化センターの施設見学ツアー
楽しみながら水を学ぶコーナーなど



【自由研究バスツアー2026】

8月7日（金）

麓山浄水場～トヨタ大衡工場～大和浄化センターを回り、施設見学やろ過実験を通じて、水をつくる・つかう・きれいに
する過程を楽しく学べるツアー



広報施策の強化：県民の信頼醸成に向けた施策を実施

透明性の高い運営と情報発信に加えて、更なる理解醸成のため、株主と共に各種広報施策を実施予定

実施内容

施策	内容	実施 パートナー
県民向けアンケート調査	みやぎ型に対する意識調査を県内モニター約1,000名を対象に実施	MW※
県内大学等での講義	学生向けに、水インフラ業界（PPPの実態）について講義 ・東北大学において6/30に実施 ・その他東北学院大、東北工業大、宮城大学へも依頼中	MW
水音スケッチ	メタウォーターのCM枠を活用しみやぎ型をPR TBCラジオにて放送中（月曜～金曜 11:45～11:52）	MW
決算情報・非財務情報の強化	HP上の情報をさらに充実	—

※MW：メタウォーター(株)

宮城県の広報WVGにも参加し、連携して各種施策を実施していく

中東情勢の影響：サプライチェーンの強化

石油由来製品の調達

下水道事業で使用する高分子凝集剤（有機系ポリマー）が**製造困難**

また、PAC、硫酸バンド、酸化剤（マンガン）、活性炭の**調達コストが増加**

⇒各事業所にて1、2か月分の在庫を確保済み

株主の調達ルートを含む複数の仕入れ先確保に注力する

重油の調達

発電機や焼却施設で使用する重油価格が高騰

⇒現時点で出荷数量・時期の制限はなく、長期停電がない限りは問題なし

改築工事影響

塗装用シンナーの出荷制限等を理由に、主に電気設備（直流電源装置、無停電電源装置、盤製品全般）の**納期が遅延**

⇒請負業者と連携し、必要に応じた設計変更や工程調整を実施

気候変動への対応：原水のかび臭物質増加に伴う課題

活性炭注入能力

原水のかび臭物質（2-MIB等）濃度が急上昇した場合、現行設備では注入能力が不足する可能性がある。



活性炭溶解槽

活性炭の貯蔵・調達

現在の活性炭貯蔵量は、最大注入時の約3日分である。活性炭は発注から納入までに時間を要するため、安定供給の観点から、貯蔵量を**少なくとも10日分**確保できるよう保管スペースを増強する必要がある。



活性炭保管スペース

みやぎ型での検討を基本としつつ、枠組みに捉われない有効な対策を検討・集約中

ご清聴ありがとうございました



みずむすび

株式会社みずむすびマネジメントみやぎ